

歴史的な見方・考え方を働かせ 「思考力，判断力，表現力等」を高める生徒の育成 ～歴史的な「見方」を具体的に提示した学習活動と対話的な学びを通して～

那覇市立仲井真中学校教諭 伊波 勝之

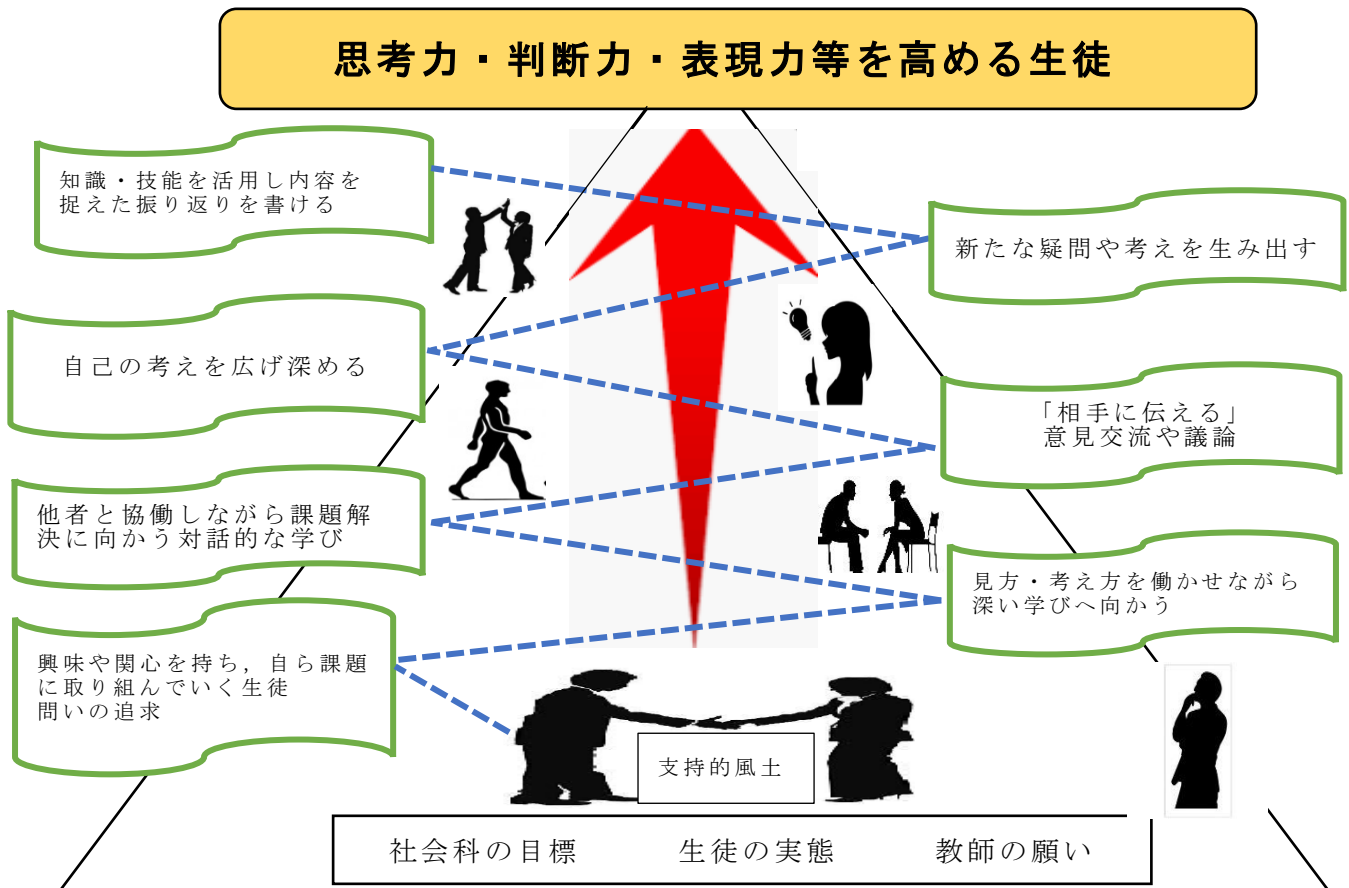
〈研究の概要〉

新学習指導要領では，“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標が示されており，学校と社会が連携・協働しながら，生徒が未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことが大きな課題として挙げられている。

本研究では，歴史的な見方・考え方を働かせることが，深い学びとなり，「思考力，判断力，表現力等」の資質・能力を高めることだと捉えた。そこで，古代国家の成立と東アジアの学習を通して，歴史的な見方・考え方の働かせ方と「思考力，判断力，表現等」を高める対話的な活動を実践的に研究・検証した。

その結果，歴史の「見方」の提示と歴史的事象に気付く問い設定することで，見方・考え方を働かせた振り返りを書くことができた。また，対話的な活動の場面では，立場が分かれる問いを設定し，自らの考えをまとめさせることで，情報を選択・判断したり，表現したりする力を育むことができたと考える。

〈研究のイメージ図〉



目 次

I	テーマ設定理由	51
II	研究目標	51
III	研究仮説	52
	1 基本仮説	
	2 作業仮説 (1)(2)	
IV	研究構想図	52
V	研究内容	53
	1 歴史学習における「思考力, 判断力, 表現力等」とは	
	2 歴史的な見方・考え方とは	
	3 多面的・多角的に考察するとは	
	4 対話的な学びの意義	
VI	授業実践 (第1学年)	55
	1 単元の概要	
	2 単元の評価基準「古代までの日本」	
	3 単元の指導と評価の計画	
	4 本時の学習指導について	
	(1) 目標	
	(2) 授業仮説	
	(3) 授業展開	
VII	結果と考察	58
	1 作業仮説(1)の検証	【結果】【考察】
	2 作業仮説(2)の検証	【結果】【考察】
VIII	成果と課題	60
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

**歴史的な見方・考え方を働かせ
「思考力，判断力，表現力等」を高める生徒の育成
～歴史的な「見方」を具体的に提示した学習活動と対話的な学びを通して～**

那覇市立仲井真中学校教諭 伊波 勝之

I テーマ設定理由

中学校学習指導要領解説社会科編では従来の社会科の課題を、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や，資料から読み取った情報をもとにして社会的事象の特色や意味などについて，比較したり関連付けたり，多面的・多角的に考察したりして，表現する力の育成が不十分である」と指摘している。この課題を解決するために，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進され，時代に求められる資質・能力の育成を目指していかなければならない。

本学級の生徒の実態をみると，世界の気候帯名等「知識及び技能」の習得を問う問題の平均正答率は70%に対し，気候帯の分布と人々の生活と環境を関連付けた思考を働かせて文章にして問う問題では，48%となっている。更にヨーロッパの学習において振り返りを書かせてみても，教科書の基本語句を使って分かったことをまとめた生徒78%に対し，地域間のつながりや差異に着目して振り返りができた生徒は44%であった。このことから学習内容の基本語句を覚え答えることはできるが社会的な「見方・考え方」を働かせ，思考を深めた取り組みを苦手としている。これは，教科書の重要語句の意味や意義に気付かせるような学習活動をさせてこなかったことや，学んだ知識を現代の生活やこれからの社会のあり方と関連付けながら思考を深める学習活動が弱かったからだと考える。

これまでの授業を振り返ってみると知識偏重型授業が中心で，社会的な見方・考え方を働かせ思考を深めるような授業づくりができていなかった。授業の発問やテスト作成においても知識習得寄りの問題になってしまい，深い学びができたか見取ることができていない。また，生徒はこれから学ぶ歴史学習に対して82%の生徒が歴史学習は暗記科目として捉えていることから，歴史的な事象の意味や意義に気付かせるような授業づくりを心がけていかなければならない。

そこで本研究では，歴史的な事象を見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察させていく。生徒が自分の意見をしっかりと持ちながら，他者との意見交流により，新たな気づきや根拠を明確にして，選択・判断する力，思考・判断したことを表現する力を高めていく。

II 研究目標

歴史的な見方・考え方を働かせた振り返りと，根拠をもとに自分の考えを他者と意見交流する活動を通して「思考力，判断力，表現力等」を高めることができたか実践的に研究する。

Ⅲ 研究仮説

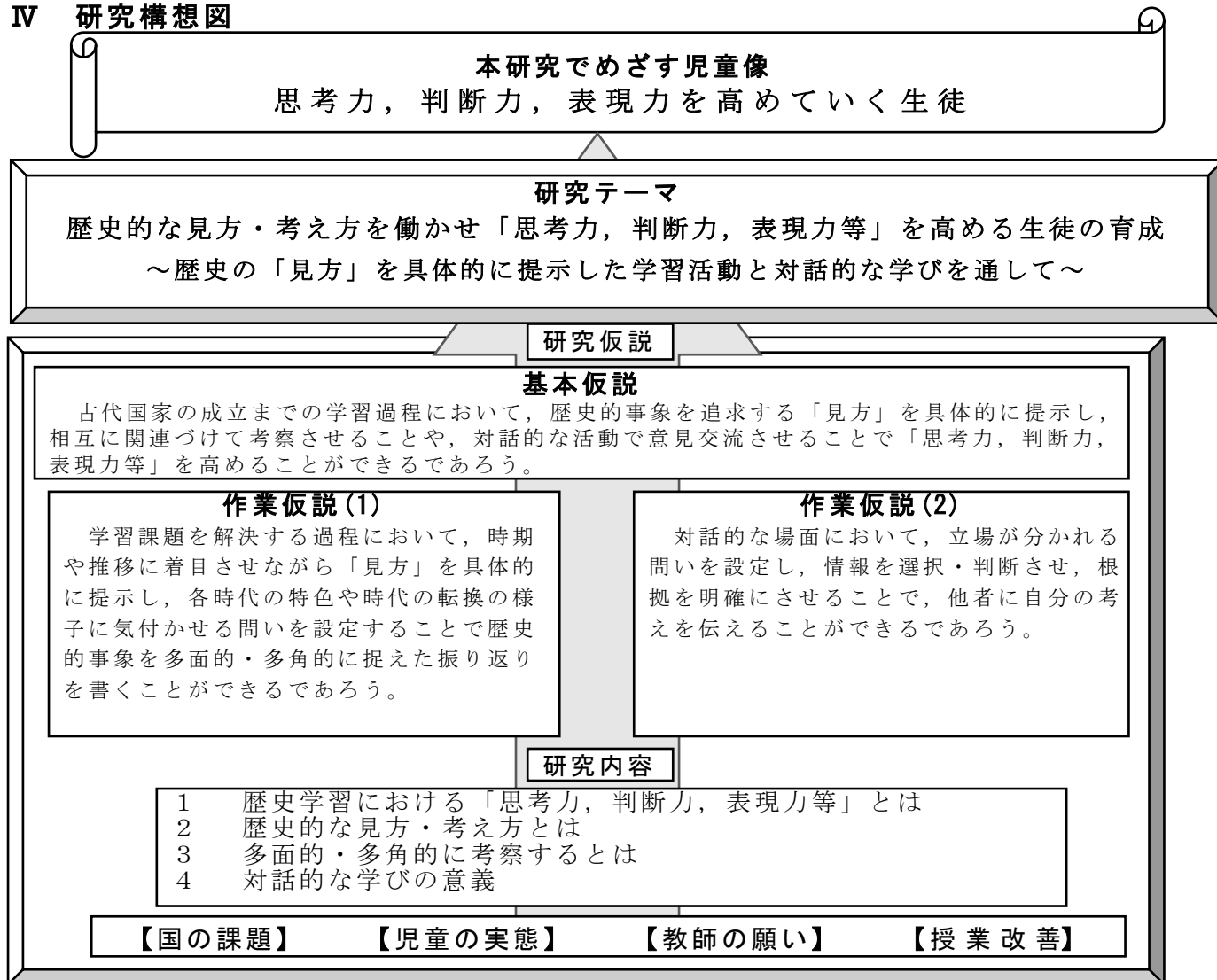
1 基本仮説

古代国家の成立までの学習過程において、歴史的事象を追求する「見方」を具体的に提示し、相互に関連づけて考察させることや、対話的な活動で意見交流させることで「思考力、判断力、表現力等」を高めることができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 学習課題を解決する過程において、時期や推移に着目させながら「見方」を具体的に提示し、各時代の特色や時代の転換の様子に気付かせる問いを設定することで歴史的事象を多面的・多角的に捉えた振り返りを書くことができるであろう。
- (2) 対話的な場面において、立場が分かれる問いを設定し、情報を選択・判断させ、根拠を明確にさせることで、他者に自分の考えを伝えることができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 歴史学習における「思考力、判断力、表現力等」とは

中学校学習指導要領(平成 29 年解説)社会編には、歴史的分野において養われる思考力、判断力を「社会的事象の歴史的な見方・考え方をを用いて、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色や、事象相互の関連を多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握して、学習したことをもとに複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる力」と記されている。また、原田(2017)は、「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、「古代までの歴史的な事象を政治、外交、社会、文化の特色を多面的・多角的に確認する学習方法がある」としている。その上で自分の考えをまとめたり、意見交換をしたりする学習活動が歴史的な思考力、判断力、表現力等を育成すると述べている。

このことから、歴史学習における「思考力、判断力、表現力等」とは、歴史に関わる諸事象や特色を考察し、考察したことを対話的な活動を通して育んでいくものだと捉えることができる。そこで本研究では、「思考力、判断力、表現力等」を高めるために、歴史的な見方・考え方を働かせながら、各時代の特色や相互の関連を考察させ、説明や議論の活動を段階的に取り入れていく。

2 歴史的な見方・考え方とは

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説社会編では、歴史的な見方・考え方について「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」と記されている。

川端(2021)は、歴史的な「見方」を生徒が理解しやすくするために、「並べる」「捉える」「比べる」「つなげる」と表現している。この四つの歴史的な「見方」を具体的にあらわしたものが表 1 である。学習課題における問いを表 1 の語句の視点から追求させることで問いの意味を理解し課題にむかうのではないかと考えた。

また川端は歴史的な「考え方」を「①各時代の特色を多面的・多角的に考察すること」「②時代の転換の様子を多面的・多角的に考察すること」の 2 種に整理している。この歴史的な「見方」と「考え方」を掛け合わせることで思考が深まると述べている。

そこで本研究では、表 2 のように A 時期や B 推移に着目させながら「見方」をより具体的に提示し、各時代の特色や時代の転換の様子に気付かせる問いを設定し、実践的に

表 1 生徒が理解しやすい歴史の「見方」
(川端を参照し筆者作成)

I 並べる	何年のできごと 何時代のできごと
II 捉える	どんな変化 どのように発展 どのように継続 どのような結果 どのような広がり
III 比べる	共通点を見つける 違いを見つける 特色を見つける
IV つなげる	どんな背景があったのか どのような原因があったのか どのような影響を与えたのか理由を見つけて 答えてみる

検証していく。この見方・考え方を掛け合わせる取り組みを通し、学習者の学びが深まり、「思考力、判断力、表現力等」が高められていくと考える。

表2 見方・考え方考察表（筆者作成）

A 時期や年代，時代区分 に着目	I 比較 (類似・差異・特色等の視点)	①各時代の特色を多面的・多面的に考察する。 ②時代の転換の様子を多面的・多角的に考察する。
	II 関連(背景・原因・結果・影響 目的・理由等の視点)	
B 推移(変化，発展，継続) に着目	I 比較 (類似・差異・特色等の視点)	①各時代の特色を多面的・多面的に考察する。 ②時代の転換の様子を多面的・多角的に考察する。
	II 関連(背景・原因・結果・影響 目的・理由等の視点)	

3 多面的・多角的に考察するとは

中学校学習指導要領解説社会編では、『多面的・多角的に考察する』とは、学習対象としている社会的事象自体が様々な側面をもつ『多面性』と、社会的事象を様々な角度から捉える『多角性』とを踏まえて考察することを意味している」と示されている。また、川端は、「多面的・多角的とは、多義的なので、具体化や焦点化が大切」と述べている。

このことから多面的・多角的に考察するという事は、「学習内容を様々な側面から異なる立場で見ること」と捉えることができる。古代国家が形成されていく過程を、政治的側面や文化的側面等、どの側面で時代の特色を捉えさせていくか焦点化することで、見方・考え方が働き、歴史的事象を多面的・多角的に考察することにつながるのではないかと考える。

本研究では、「古代国家の形成」という時代の大きな流れを各時代に生きた天皇や豪族、農民の視点から追求させていく。また、単元計画の中では、日本と東アジアとの関わりを重要事項と位置づけながら、中国や朝鮮半島から受けた影響と国づくりの関係を政治的側面と文化的側面から気付かせる学習を展開していく。このような取り組みが多面的・多角的な考察につながると考える。

4 対話的な学びの意義

平成29年改訂中央教育課程審議会答申では「対話的な学びとは、子ども同士の協働、教職員や地域との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」と示されている。対話的な学びは深い学びを達成させる方法であるとともに、資質・能力を育む有効な手段であると考え。また、大島（2019）は深い学びを実現するための「対話的な学び」を以下のように定義している。「①自分で発言する内容を自由に決めることができるので、学び手の自己決定性が高まり、自分でやろうとする気持ちを駆り立てる」、「②他の学び手の説明を聞く中で、自分一人で説明を考えているときには気

づかなかったことを学んだりすることで、推論が促され、学習内容に対する理解が深まる」、③汎用的に使える議論能力の獲得が促される」としている。自分の考えを相手に伝え、他者の意見から新しい考えに気付くことは、深い学びにつながる重要なことだといえる。大島の理論を参考とし、生徒が自己決定できる場を設定し、相手の説明を聞いたり、議論したりする活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を高めさせていきたい。

そこで本研究では、自己の考えを広げ、深めさせることを目的として対話的な学び「シンカタイム」を設定していく。シンカタイムとは、自らの考えを深める「深化」、他者の意見を聞いて、新たな考えをつくりだそうとする「進化」を意味する。シンカタイムでは、立場が分かれる問いを設定し、自己決定させ、なぜ自分がその立場を選択したのか理由を資料の情報から選択・判断し書かせる。次に同じ意見の者同士、共有させる。その上で、ファシリテーターを中心に学級全体での意見交流を行う。新たな気づきをもとに、自分の考えの根拠や理由をより明確にして書かせる。対話的な活動を通して自らの考えを深め新たに考えを生み出すことができたか実践的に研究する。

表 3 シンカタイムによる授業の流れ (筆者作成)

流れ 1	立場が分かれる問いにより、考えを明確にさせ、自ら考察したことを書かせる。 (資料を読み取らせ、情報を選択・判断させ、推論させる)
流れ 2	ノートを持たせ、同じ考えの者同士集まり、意見の共有・整理をさせる。 グループで誰が発表をしても良いようにメモを取らせる。
流れ 3	より活発な意見交流となるように、ファシリテーターによる話し合いを進行させる。 学級全体による対話的な活動(意見交流) ※説明する力が身につけてきたと教師が判断したら、「話形」を取り入れながら議論の練習を取り入れる。
流れ 4	対話的な活動から発表された言葉により、学習内容や新たな考えに気付かせる教師の工夫。

VI 授業実践 (第 1 学年)

1 単元の概要

単元名	第 1 章 古代国家の成立と東アジア
内容の まとめ	第 1 学年 B(1) 古代までの日本
単元の目標	(1) 我が国の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解するとともに、古代の日本に関する様々な資料から歴史に対する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(ア)世界の古代文明や宗教のおこり、(イ)日本列島における国家形成、(ウ)律令国家の形成、(エ)古代の文化と東アジアとの関わりについて古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察したり、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考、判断したことを説明したり、それをもとに議論したりする力を養う。 (3) 古代に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養う。
働かせる 見方・考え方	「古代国家の成立」を「影響」や「背景」等を視点に考察し、表現する。

2 単元の評価規準「古代までの日本」

思考 ・ 判断 ・ 表現	<p>①古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目しながら古代の国づくりの過程を考察し、表現している。</p> <p>②古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③古代の国づくりにおいて時期や推移に着目し、各時代と比較し、歴史的事象原因と結果や、背景や影響の広がり等を捉え考察し表現している。</p>
--------------------------	--

3 単元の指導と評価の計画

【 ・ 】 指導に生かす評価 【 ○ 】 記録に残す

時間	学習活動と児童生徒の反応 (◆)	学習を支える教師の働きかけ (□)	【評価項目】(評価方法)	
第一節	1	日本列島に人類が住み始めた経緯や、旧石器時代と新石器時代の違いを理解できる。 ◆人類の進化をたどってみたい。	□猿人や原人、新人を比較しながら、人類の進化の過程とその特色を捉えさせる。 見方・考え方考察表 A I ①	【・主体的態度】① 学習ノート分析
	2	環境の変化の影響を受け、牧畜や農耕が始まり、文明が発生したことを理解できる。 ◆ピラミッドを調べてみたい。他の四大文明を調べてみたい。	□世界地図を活用し、文明の発達には近くに、大きな河川があったことに気付かせ、四大文明を比較しながら特色を捉えさせる。 見方・考え方考察表 B II ①	【・知技】② 学習ノート分析
	3	中国文明の特色を、他の古代文明との共通点から理解できる。 ◆万里の長城はどのへんにあるか、どのような目的のために作られたのか調べてみたい。	□秦や漢が大きな領土を治めるために行った政治の仕組みを理解させる。また中国の文明が今後、アジアの国々に与えた影響を予想させる。 見方・考え方考察表 A I ①	【・思判表】① 学習ノート分析
	4	古代のギリシャとローマの政治と文明の特色を理解できる。 ◆5000年前にどのような政治をしていたのか調べてみたい。	□古代ローマ文明は貴族を中心に展開され、領土拡大を広げたことに気付かせる。また、多くの国と交易を活発にしたことも関連づける。 見方・考え方考察表 A I ①	【・知技】① 学習ノート分析
	5	仏教、キリスト教、イスラム教の特色を理解できる。 ◆それぞれの宗教はどこで始まったのか知りたい。	□三つの宗教が誕生する背景として、共通することは何か考えさせる。また現在宗教が世界に与えた影響を気付かせる。 【節の問い】 見方・考え方考察表 A II ①	【○知技】① 【○思判表】① 振り返りシート 単元テスト
第二節	6	縄文時代と弥生時代の人々の生活の特色を理解できる。 ◆当時の人々はどのような暮らしをしていたのか調べてみたい。	□縄文時代と弥生時代を比較させ、生活や道具が大きく変化した理由を考察し、説明させる。 見方・考え方考察表 B II ①	【・主体的態度】① 【・思判表】① ノート・振り返りシート
	7	中国の歴史書を読み解き、当時の日本国内では小国が分立して争っていたことが理解できる。 ◆争いが多い原因は何か調べてみたい。 シンカタイム1 ムラとクニ平和が続くのはどっちだろう？	□邪馬台国以後、中国の歴史書に日本の名前が出てこないことに触れ、関心を高める。縄文時代や弥生時代の交易の広がりについて理解させる。見方・考え方考察表 A II ①	【・思判表】① ノート・振り返りシート
	8	ヤマト王権が勢力を拡大していった経緯を考察し説明できる。 ◆誰がヤマト王権を支配したのか知りたい。	見方・考え方考察表 A II ① 【節の問い】 日本列島には、どのように国ができて、勢力を広げたのだろう。	【○知技】 【○思判表】① 振り返りシート
第三節	9	古代国家はどのような影響を受けて始まったのか理解できる。 ◆聖徳太子はなぜどんな国づくりを目指したのか知りたい。シンカタイム2 飛鳥時代に仏教を取り入れるのは賛成？反対？	□聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりを中国との関わりから理解させる。 見方・考え方考察表 A II ①	【・主体的態度】① 【・思判表】① ノート・振り返りシート
	10	律令国家がつくられる背景を説明できる。 ◆大化の改新はどのような目的で行われたか知りたい。	□遣唐使を派遣し優れた唐の文化を取り入れ、律令国家のしくみが整えられたことを理解する。見方・考え方考察表 A II ①	【・知技】 ワークシート 振り返りシート

第三節	11	奈良時代の土地と税の制度にはどのような特徴があったか理解できる。 ◆当時の農民はどのような税を払っていたのだろう。	□貴族や農民の立場から律令国家の特色について捉えさせる。 見方・考え方考察表 B II②	【・知技】 ワークシート 振り返りシート
	12	奈良時代には、大陸の影響を受けた国際的な文化が栄えたことを理解できる。◆奈良の大仏はどんな目的で作られたのだろう。 シンカタイム3 古事記や日本書紀は誰のためにつくられた？天皇 or 貴族 or その他	□天平文化は東アジアの影響を受けただけでなく、ユーラシア大陸の交易の中で形づけられたことに気付かせる。見方・考え方考察表 A II① 節の問い 日本の古代国家は、どのような国づくりを行ったのだろうか。	【・思判表】 ノート 振り返りシート
第四節	13	桓武天皇の政治の特色を理解し、平安京に都を移した理由を理解させる。 ◆どうして天皇の権力が弱くなったのだろう。	□これまで天皇中心の国づくりが行われてきたが、摂関政治の始まりにより貴族が力を付けてきたことを理解させる。 見方・考え方考察表 B II②	【○知技】 【○思判表】① 振り返りシート 単元テスト
	14	唐風文化と国風文化を比較し、その特色を捉えることができる。 ◆なぜ唐風文化から国風文化に変わったのだろう。 シンカタイム4 平安時代は中国の文化を取り入れるか、日本独自の文化を進めるか。	□唐風文化から国風文化に変わった背景を、東アジアとの関わりから理解させる。 【節の問い】 見方・考え方考察表 A I ①	【・知技】 ワークシート 振り返りシート
	15 本時	検証授業 古代の国が成立するために重要なことは何か。 ◆古墳時代から平安時代までどんな国づくりをおこなってきたかを復習してみたい。 シンカタイム5 古代国家の柱となっているのはどの時代？ 古墳 or 飛鳥 or 奈良 or 平安	□歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解させる。 【章の問い】 見方・考え方考察表 A I II①②	【○思判表】 【○主体的態度】 ノート 振り返りシート

4 本時の学習指導について

(1) 目標

「古代の国家が成立するために重要なこと」を表現する活動を通して、我が国の大きな歴史の流れを大観させ、各時代における古代国家づくりの特色をまとめることができるようにする。

(2) 授業仮説

話し合い活動の場面において、異なる立場の考えを比較させて、章の問いと関連付けることで、多面的・多角的に考察し、歴史的な見方・考え方を働かせたまとめを書くことができるであろう。

(3) 授業展開

	学習活動	教師の働きかけ (□) 予想される生徒の反応 (◆)	評価規準 【評価項目】 (評価方法)
導入	1 問題把握	□古代文明と日本文明には共通点があるけど何だと思っかな。 「古代」・「国家」の語句の意味を再度、確認する。	
展開	2 学習課題	学習課題【章の問い】 古代の国が成立するために重要なことはなんだろう。	
	3 (1)時代並び替え, 重要語句の確認	日本の古代は、古墳時代から平安時代までを指すことをおさえ、既習事項を確認し次の発問につなげる。 発問 古代国家づくりの柱となっているのはどの時代だろう。	【思判表】 (概ね満足) 古代国家の成立に影響を与えた事象について話し合うことにより、既習してきたことを基に、自分の考えを他者に表現している。
	(2)シンカタイム (話し合い活動) 個で考え, 学級討議	古代の国づくりにおいて、柱となった時代を選択させる。また、学習ノートや振り返りシートを活用させながら、根拠をもとに自分の考えをまとめさせる。それぞれの立場から発表させる。 章の問い 古代の国が成立するために重要なことはなんだろう。	【思判表】 (概ね満足) 古代までの日本の政治、外交、社会、文化の特色をまとめた資料をもとに、古代の国が成立するために、重要なことを事象と相互に関連付けて表現している。
	(3)学習の深まり 多様な意見や考えを参考に、章の問いを自分なりの考えでまとめる。	歴史的な見方「比較」「関連」を黒板に提示し、古代国家の重要な要素を多様な視点から考察させる。	
末	まとめ 学びのつながり		【思判表】 (概ね満足) 時期や推移に着目し、各時代と比較したり原因と結果、背景や影響等から捉え考察している

Ⅶ 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

学習課題を解決する過程において、時期や推移に着目させながら「見方」を具体的に提示し、各時代の特色や転換の様子に気付かせる問いを設定することで歴史的事象を多面的・多角的に捉えた振り返りを書くことができるであろう。

【結果】

表4は、検証15時間の振り返りである。検証前では、歴史的な見方・考え方を働かせながら振り返りを書いた「概ね満足B」の生徒は10人であった。しかし、検証8時間目の授業では、ヤマト王権が勢力を拡大する前の

表4 振り返りの内容における生徒の変容

学習の記録 観点別学習 状況	検証前	授業8時間目 AⅡ①検証	授業13時間目 BⅡ②検証	授業15時間目 AⅡⅠⅡ①②検証
A	0人	3人	6人	5人
B	10人	13人	14人	21人
C	20人	14人	10人	4人

日本の「背景」や、東アジアとの交流が古墳時代に与えた「影響」を振り返りに書いた「概ね満足B」の生徒は13人であった。検証15時間目(章のまとめ)の授業では、21人の生徒が、見方・考え方を働かせながら振り返りを書くことができおり、C評価の生徒の割合も減らすことができた。

下記の図1は、抽出生徒Aの振り返りの変容をあらわしたものである。検証前の振り返りでは、古代文明についてギリシャとローマの政治を比較しているが、具体的な内容は書かれておらず、下線A「違いがあるのがわかった」という簡単な文章でまとめられていた。しかし、検証8時間目の振り返りシートでは、下線B「卑弥呼とワカタケルを比較すると卑弥呼は大国に認められることで王となったが、ワカタケルは進んだ技術を利用することで王になっていったことがわかる」と王となった過程を捉えながら比較し差異を見いだすことができ、「見方・考え方」を働かせることができている。

第1章第2節のまとめには「日本列島には、どのようにクニができて、勢力を広げたのだろう」という単元を貫く課題を設定した。図2は抽出生徒Bによる記述内容である。弥生時代には、稲作が伝わった影響で争いが起きたことを表現しており「影響」という見方が使われている。更に争いが治まった「理由」を書いている。また古墳時代においては、「東アジアとの交流」により、ヤマト王権が勢力を広げている過程が書かれており、時代の特色を多面的・多角的に捉えながらまとめることができている。

検証前	検証8時間目
ギリシャとローマではどのような政治が行われていて、政治にどんな違いがあるのがわかった。A	卑弥呼とワカタケルを比較すると、卑弥呼は大国に認められる事で女王となったが、ワカタケルは進んだ技術を利用し、王になったことがわかる。B

日本列島では、弥生時代に他国から伝わった稲作がムラを大きくした。しかし、その影響で土地や水の利用をめぐる争いが起きたが卑弥呼が中国に使者を送り、倭王の印と金印を授かったため、争いが減った。古墳時代では、ヤマト王権が東アジアとの交流で得た鉄や技術を各地の豪族に与えることで、勢力を広げていった。

図1 抽出生徒A振り返りの変容

図2 抽出生徒B 単元を貫く課題の記述

右の表は「古代国家の成立と東アジア」の単元を終えての期末テスト結果である。弥生時代、卑弥呼がどのように30余りのクニを治めたか「思考・判断・表現」を問う問題では、検証外のクラスの正答率は30%であった。検証クラスにおいては、金印を中国から授かり、女王として認められたことで周りのクニを支配したことが書かれており、東アジアと関連付けた正答率が86%であった。

表5 思考・判断・表現の問い 正答率

	生徒数	正答率
検証外クラス	9/30	30%
検証クラス	26/29	86%

【考察】

生徒の振り返りの変容や、思考力、判断力、表現力等を問うテストの結果から、見方考え方を働かせながら、書ける生徒が増えていることがわかった。歴史的な事象を追求する「見方」を具体的に提示することで、問いの意味を的確に捉えることができたと考える。更に、各時代の特色や時代の転換の様子に気付く問いを設定することで比較したり、影響や理由等と関連付けながら学習内容の意味や意義に気付くことができた。以上のことから、歴史的な「見方」と「考え方」を掛け合わせる方法は、「思考力、判断力、表現力等」を高めるために有効な手段であったと考える。

2 作業仮説(2)の検証

対話的な場面において、立場が分かれる問いを設定し、情報を選択・判断させ、根拠を明確にさせることで、他者に自分の考えを伝えることができるであろう。

【結果】

本研究では、立場が分かれる問いにより、他者と異なる考えを書きまとめ、相互の意見を伝え合う対話的な活動（シンカタイム）を行ってきた。図3は、自分の立場を明確にし、なぜその立場を選択したか理由を書いた生徒数をあらわしたものである。1回目の対話的な活動では、自分の考える立場を決定し、理由まで書いた生徒は30人中19人だった。対話的な活動を行うごとに、自分が選択した立場を、根拠をもとに書ける生徒の割合が増え、5回目の対話的な活動では、29人の生徒が自分の意見を書くことができるようになった。次に、対話的な活動をする前と後での生徒の意見の変容を検証した。図4は、対話的な活動で変容が見られた生徒の意見である。対話的な活動を行う前では、律令が完成し、政治の仕組みが整えられたことを自分の意見としている。しかし、対話的な活動後では、「〇〇さんの意見を聞いて、現在にも重要な税のしくみにつながると思った」

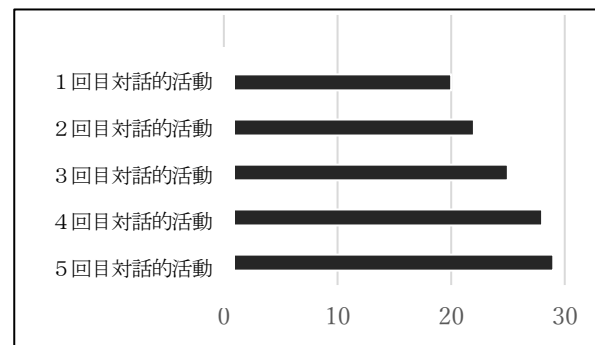


図3 自分の考えを書いた生徒の割合

検証前
理由は、平和な国づくりのために律令が完成し、戸籍を作ることも大事だと思ったから。

検証後
なぜなら、シンカタイムで〇〇さんの意見を聞いて律令が完成したことを背景として、現在にも重要な税のしくみにつながると思った。

図4 生徒の意見の変容 原文引用

と表現されており、新たな気づきが生まれ理解を深めることができたのではないかと考える。

【考察】

対話的な活動の場面において、立場が分かれる問いを設定することで、自分の考えを表現することが苦手な生徒もどの立場で考えるか意志決定からできるようになった。自分の立場を意志決定できた生徒は、なぜその立場を選択したのか根拠をもとに書くことへつながったのではないかと考える。

図5は自分の考えを表現できるか検証前と後に行ったアンケートの結果である。検証前に自分の考えを、根拠を持って書くことができるかと答えた生徒は、46%だったが、検証後には89%まで上がっている。更に、全体の前で伝えることができるようになった生徒は、検証前の21%から86%まで変化した。対話的な活動の後に、「相手の意見や考えを参考に、自分の考えを新しく生み出して書いている」という問いに、はいと答えた生徒は、検証前の31%から、検証後90%まで伸びている。このことから立場が分かれる問いを設定し、情報を選択・判断させ、根拠を明確にさせることで深い学びにつなげることができたのではないかと考える。また、自分の考えを仲間と共有したり、他者の意見を聞く活動を通して、違う考えに気づき新たな考えを生み出している。以上のことから対話的な活動は「思考力、判断力、表現力等」を高めるために有効な手段であったと考える。

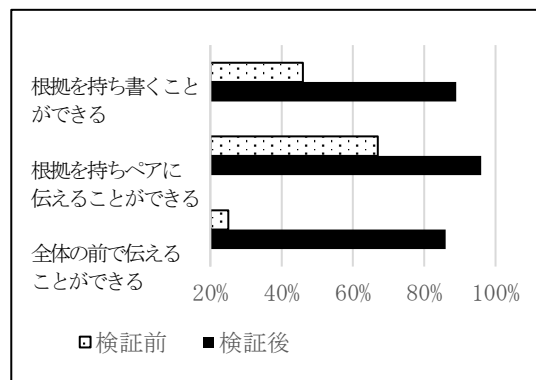


図5 自分の考えを表現できる生徒の割合

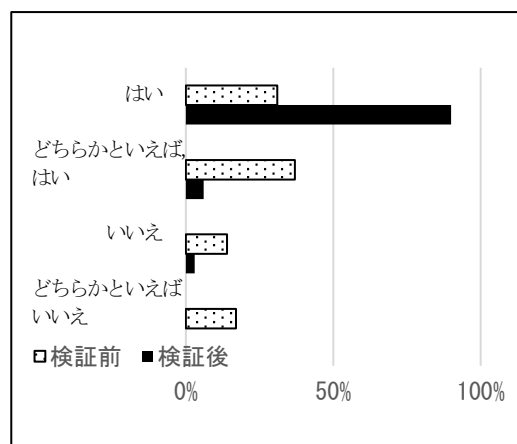


図6 相手の意見を参考に新たな考えを生みだし書いている

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 歴史的事象を追求する「見方」を具体的に提示し、各時代の特色や時代の転換に気付かせる問いを設定することで、「見方・考え方」を働かせた振り返りを書くことができた。
- (2) 対話的な場面において、根拠をもとに自分の意見を書ける生徒や新たな考えを生み出して書く生徒が増え、「思考力、判断力、表現力等」を高めることができた。

2 課題

- (1) 歴史の「見方」が教師主導となっている。単元を貫く問いと関連させた小単元、毎時間の問いを工夫し、生徒が主体的に課題を見つけ、多くの視点から歴史的事象を追求させたい。
- (2) 話し合い活動では、意見の交流のみに留まった場面も見られた。ICTを活用し、根拠となる資料を厳選させることで、より論理的に考えをまとめさせ、議論する活動を取り入れ、より深い学びへつなげる。

《主な参考文献》

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018
『見方・考え方を働かせる発問スキル』	川端祐介	明治図書出版	2019
『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック』	大島純 他	北大路書房	2019
『新学習指導要領の展開 社会』	原田 智仁	明治図書出版	2017